

# 立教新座高等学校

人工衛星を通じた部活動における持続可能な協働プロジェクト



## 高校の部活動で人工衛星を作る!

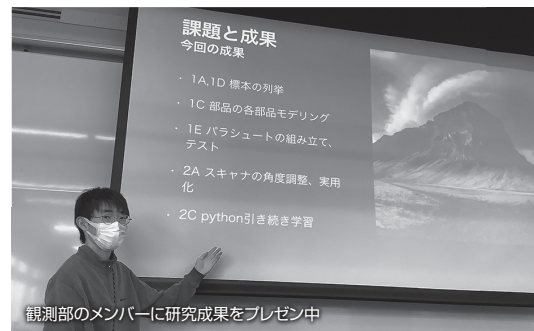
### 初の研究発表で来賓特別賞を受賞

2021年12月、人工衛星開発を研究目標にした立教新座高等学校観測部が、中谷財団の成果発表会で来賓特別賞を受賞した。「とても夢のある研究」と期待をかけてくれた選考者が「はやぶさ2」のミッションマネージャーである JAXA 宇宙科学研究所の吉川真准教授ということもあり、部員14名の喜びもひとしおだ。

現在の研究が本格始動したのは約1年前だが、コロナ禍の影響もあって研究発表自体が初めての経験だった。そのため、発表者の1人である2年生の須崎溪介さんは「しばらく実感がわきませんでした、自分たちの研究は周りにも評価されるものなのだと認識できました」と話す。この評価は、部内の定期報告会で鍛えられた部員たちのプレゼン能力や自主性の賜物だ。



成果発表会のポスターと来賓特別賞の賞状を掲げる1,2年生の部員たち



観測部のメンバーに研究成果をプレゼン中



#### ●実施担当

島野誠大 教諭

#### ●活動のモットー

自分で考え、決断し、実行できるようになってほしい。そのため、意識的に具体的な助言をしないようにしている。



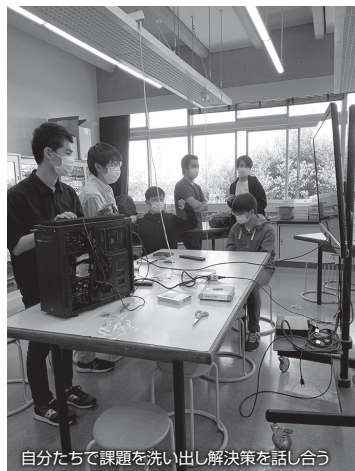
定期報告会用の動画制作に取り組む

### 自主性を育てる「問いかけ」の場

観測部の研究は、実際の人工衛星開発と同様、通信班や電源班などに分かれて進められており、定期報告会では各班が動画などを用いて成果のプレゼンをしてきた。

一方、顧問の島野誠大教諭にとって報告会は、「なぜそう思う？」などと訊くことで部員自らが考え、調べるように促す「問いかけ」の場だ。島野教諭は「この問いかけが自分の中で生まれるようになればもう大丈夫」と部員の自主性を評価する。この言葉を裏づけるように、2年生の勝野遙成さんは「報告会を重ねるなかで、課題の洗い出しだけでなくその解決策も自分なりに考えて報告するようになりました」と言う。

後輩への研究成果の継承という目下の課題についても「何かマニュアルのようなものを残そうかと考えています」(2年生の佐藤功一さん)と自分たちなりの解決策を模索しており、人工衛星開発という大きな夢に向けて着実に歩みを進めている。(個別助成)



自分たちで課題を洗い出し解決策を話し合う

学校概要



「テーマを持って真理を探究する力を育てる」「共に生きる力を育てる」を教育目標に、大学まで視野に入れた中高一貫教育校。

設立: 1948年  
生徒数: 977人  
所在地: 埼玉県新座市北野1-2-25

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索